

1 総合計画における都市像

四日市市総合計画（計画期間：平成23～32年度）の基本構想では、目指すべき都市像を「みんなが誇りを持てるまち四日市 ～安心、元気・魅力、絆のあるまちを目指して～」と掲げ、その実現のためにまちづくりを分野に分けて5つの基本目標の実現に取り組んでいます。

みんなが誇りを持てるまち 四日市

～安心、元気・魅力、絆のあるまちを目指して～

そのなかで、中心市街地については、都市型産業や次世代産業の導入、商業・文化・福祉・医療施設などの充実といった方向性が示されています。

本計画においても、目指すべき都市像「みんなが誇りを持てるまち四日市」の実現に向け、賑わいや暮らしやすさを高め、すべての市民が誇れる、本市の“顔”にふさわしい中心市街地を形成することを目指します。

2 中心市街地活性化のコンセプト

かつて、中心市街地は、商店街や大型商業施設に買い物に行き、終日楽しめる場所であり、その人通りによる活気が賑わいとなっていました。しかし、社会潮流や経済情勢の変化に伴い、中心市街地の人を引き付ける力が徐々に弱まり、人々の意識も変化していきました。

本市においても、郊外に複数のショッピングセンターが立地し、主要道路沿いに商業施設が建ち並ぶなど、都市構造が変化するなかで、市民の中心市街地に対する評価も変わり、賑わいが低下しています。

しかし、中心市街地は、買い物等の商業の場所というだけでなく、交通結節点として常に人が往来する場所、就業の場所、イベントや文化活動・市民活動等に参加し楽しむ場所、公的施設が集積し“用事”を済ませる場所など、多様な機能を果たし、多くの魅力が詰まった拠点です。

本計画では、中心市街地が有するこれらの魅力や機能を生かし磨き上げること、そのような取り組みを進める主体をつなぐことで、より多くの市民にとってかけがえのない場所となる“新たな中心市街地像”を描き、その姿を実現することを、本市における中心市街地活性化として再定義します。

新たな中心市街地像

今昔の宿場町・人集い賑わう ^{いち}市のまち 四日市
～ 人が集い、住みたくなるまちを目指して ～

この中心市街地像を実現するためには、本市の名前の由来でもある「市（いち）が持つ活気」や東海道 43 番目の宿場町として育まれた「もてなしの心」によって四日市ならではの賑わいを再構築することが求められます。

そのため、商業地としての魅力の維持・向上を図りながら、観光や文化といった新たな魅力の創出、居住者が安心して快適に暮らせる場づくり、誰もが訪れることができる交通環境の整備などの取り組みを展開し、より多くの人々が訪れたい、住みたいと思うまちづくりを進めます。

前述の新たな中心市街地像を実現するための目標として、「交流人口の増加」と「居住人口の増加」を設定します。

人が集うまち	(1)『交流人口の増加』
住みたくなるまち	(2)『居住人口の増加』

(1) 交流人口の増加

目標設定の理由

中心市街地には多くの公共施設、文化施設、商業施設等が集積しているため、市内のみならず周辺市町村からも多くの人々が訪れています。また、全国有数の産業都市であることを背景にビジネス目的の来街者が多く、さらに、近年は観光目的の来街者も多くなっています。このように、本市の中心市街地の賑わいは、市内外から多様な用件で訪れる人々によってもたらされていることから、中心市街地活性化の目標として『交流人口の増加』を設定します。そして、中心市街地を訪れる交流人口がまちを回遊し、行動範囲を広げることにより、中心市街地全体の賑わいの向上につながることが期待されます。

(例)交流人口のイメージ

- ・ 買い物を楽しむ人
- ・ ランチや夜の飲食を楽しむ人
- ・ 通勤・通学、ビジネス目的で訪れる人
- ・ 市役所等の公共施設を利用する人
- ・ 観光や散策に訪れる人
- ・ イベントに訪れる人
- ・ 文化・芸術活動や市民活動をまちで行う人 など

目指す方向性

市民をはじめ、観光やビジネス目的の来街者など、中心市街地にさまざまな人が集まり、多様な取り組みを展開することができる魅力的な空間となるよう、中心市街地の回遊性の向上を図るとともに、各種イベントなどによる“訪れたいまちづくり”に取り組めます。

定量的な数値目標の設定

本計画においては、交流人口の増加を図る指標は、歩行者流量とします。

近鉄四日市駅からララスクエアをはじめとする大型施設が立地する駅西方向の人の流れは増加しているものの、アーケードを有する古くからの商店街が立地する駅東方向の人の流れは減少傾向にあります。

様々な用件で訪れる交流人口を増加させるとともに、まちの回遊性を高めることにより、中心市街地全体の歩行者通行量の増加を目指します。

目標値は、各事業の効果や居住者数の増加を加味して、下記のように設定します。

(平日)

	現状値 [平成 20～24 年度の平均]	目標値 [平成 29 年度]
中心市街地内主要 7 地点	43,516 人	45,400 人
ララスクエア東出口前	11,858 人	12,400 人
旧ジャスコ四日市店 A C A N 南口前	5,750 人	6,100 人
近鉄四日市駅北口(西方向)	11,249 人	11,500 人
近鉄四日市駅北口(東方向)	5,325 人	5,600 人
キタオカ前<一番街商店街内>	6,550 人	6,900 人
旧加賀屋化粧品前<諏訪新道発展会内>	1,843 人	1,900 人
旧丁子屋洋服店前<本町通り商店街内>	941 人	1,000 人

(休日)

	現状値 [平成 20～24 年度の平均]	目標値 [平成 29 年度]
中心市街地内主要 7 地点	47,912 人	50,300 人
ララスクエア東出口前	16,651 人	17,400 人
旧ジャスコ四日市店 A C A N 南口前	4,779 人	5,200 人
近鉄四日市駅北口(西方向)	13,867 人	14,200 人
近鉄四日市駅北口(東方向)	4,440 人	4,800 人
キタオカ前<一番街商店街内>	6,319 人	6,700 人
旧加賀屋化粧品前<諏訪新道発展会内>	1,296 人	1,400 人
旧丁子屋洋服店前<本町通り商店街内>	558 人	600 人

<歩行者流量の把握について>

- ・中心市街地の歩行者流量は、これまで買い物を目的とする来街者の状況を把握することを主眼に実施しており、9時から19時までの、中学生以上の歩行者数(自転車を含む)を調査してきました。
- ・今後、中心市街地が買い物の場としての役割だけでなく、居住者の生活の場、文化活動をはじめとする様々な市民活動の拠点、ビジネスや観光目的の来街者のおもてなしの場など多様な役割を果たすことで、現在よりも幅広い時間帯に多様な世代が集い、賑わうまちになることを目指しています。
- ・そのため、今後の歩行者流量の把握においては、これまでの調査よりも調査時間を拡大し、調査対象者を中学生以下も含める等、中心市街地の人の動きをより広範にわたって把握できるように改善するとともに、今後の中心市街地活性化の取組みに活かしていきます。

(2) 居住人口の増加

目標設定の理由

本市の中心市街地の居住者数は、近年、マンション建設が進んだことを背景に約1.3万人にのぼります。市内外からの来街者による賑わいととも、この居住者が日常生活を展開する様子も、賑わいの重要な要素となっています。

このため、「住みたくなるまち」の目標として「居住人口の増加」を設定します。居住人口の増加のためには、住宅供給を促し転入者を確保するとともに、居住環境の向上により、転出者の減少を図ることとします。

なお、中心市街地には、子育て世帯や高齢者世帯など、多様な世帯が暮らすことを想定します。

目指す方向性

民間による住宅供給の促進や、高齢者世帯、子育て世帯、単身・夫婦世帯など、様々な人々が安心して暮らし続けられるよう、利便性が高く、安全安心な暮らしの場づくりを進めることにより、居住人口の増加（転入人口の増加、転出人口の減少）を図ります。

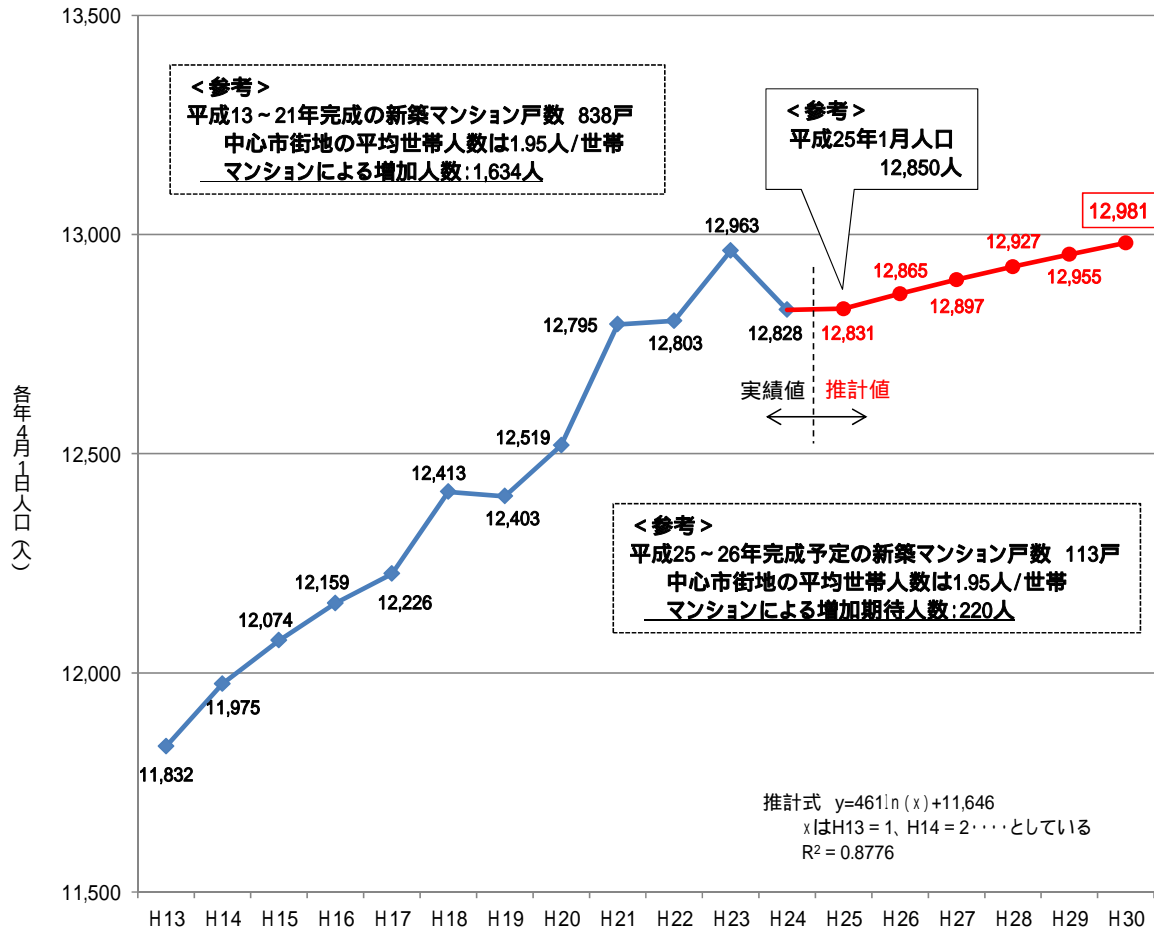
定量的な数値目標の設定

本計画においては、居住人口の増加を図る指標として、中心市街地内の住民基本台帳人口を設定します。

平成13年から10年間に中心市街地では約1,000人の人口増加がありましたが、この動向が今後も続くと想定した場合、平成29年度の人口は12,981人と推計されます。これを踏まえて、平成29年度における居住人口は、民間住宅の供給促進や居住環境のさらなる向上を図ることにより、13,000人を上回る目標値を設定します。

指標名	現状値 [平成24年度]	目標値 [平成29年度]
居住人口（中心市街地の町丁目の人口）	12,828人	13,000人

図：中心市街地における人口推計



新たな中心市街地像を実現及び中心市街地活性化の目標を実現するため、各分野における本市の取り組みを推進するにあたって、基本的な方針を以下の通り示します。

(1) 魅力と活力のある商業環境の整備

商店街を構成する個店の魅力をそれぞれが高め、商店街全体の活性化に取り組んでいくため、各店主を対象とした学習機会の提供や、来街者へのおもてなしに繋がる取り組みを進めます。また、現在は近鉄四日市駅西側で多くなっている人の流れを駅東側にも波及させるため、駅西側の来街者数を維持する取り組みを継続しつつ、歩行空間の景観改善などにより、中心市街地の回遊性を高めます。

各種イベントの改善や、イベント間の連携強化を図るとともに、一体的な情報発信による来街者の増加に取り組みます。また、中心市街地の賑わいの拠点として整備されたすわ公園交流館も含め、中心市街地のシンボルである諏訪神社・諏訪公園を生かし、賑わいや憩いの機能を高めます。また、諏訪神社・諏訪公園と周辺商店街とのつながりを強化し、イベント参加者や公園の来訪者が商店街にも足を運べるような工夫を検討します。

中心市街地の就業の場としての機能を高め、多様な目的で中心市街地を訪れる人を増やし、賑わいにつなげるため、都市型産業の誘致及び支援を行います。

まとまった空き地については、地権者との協議を進め、中心市街地内の活性化に寄与する有効な土地活用を働きかけます。

(2) まちなか交流活動の促進

(仮称)四日市公害と環境未来館の整備や市立博物館のリニューアルを通して、中心市街地における地域資源の拡充を進めるとともに、四十三茶屋を拠点としたまちなか観光の促進を図ります。

また、コンベンションの誘致や観光関連サービスの拡充を図ります。

鉄道駅周辺において、各種施設や避難場所に関する案内表示の設置を進める一方、様々な媒体により中心市街地内のイベントや商店の情報を発信します。

中心市街地における文化活動をより一層発展させるため、拠点施設における活動を支援するとともに、文化関連イベントの充実を図ります。

(3) 暮らしよさが実感できる定住促進

来街者や居住者がこれまで以上に中心市街地を回遊できるよう、防犯面を中心とした安全・安心なまちづくりを進めるとともに、ごみの収集・回収といった環境面の改善に取り組めます。また、まちなか居住を促進するため、地権者や開発事業者による住宅供給を促すための取り組みを推進します。

子育て世代や高齢者にも受け入れられるまちをめざし、中心市街地の特性を生かした居場所や憩いの場づくりなどに取り組めます。

(4) 人・環境にやさしいまちなか交通の確立

レンタサイクルやカーシェアリングなど、環境にやさしい移動手段の環境整備を進めるとともに、公共交通機関の利用を促します。

公共交通機関の結節点であり、多くの人が利用する鉄道駅の安心安全や利便性を高めるため、鉄道駅におけるバリアフリー化や高架橋の耐震化を進めるとともに、来街者に対する情報提供のための案内表示を拡充します。

中心市街地内の歩行環境を高めるため、踏切や道路の安全性の向上を図るとともに、楽しんで歩けるような舗装や景観づくりを進めます。